



自転車社会の環境改善を目指して No.20

## 一人ひとりの交通安全意識の向上が 環境改善の基盤



文

自転車ジャーナリスト 岡田 由佳子  
<http://ameblo.jp/yukakokada/>

自転車活用推進研究会  
 事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4階  
 TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>

### はじめに

快適な自転車環境を整備するためには、自転車レーンの整備と交通ルールの認知徹底は必要不可欠。それは本誌の読者にとって百も承知のことだ。整備を進めていくのと同時に「今」できることは何なのかについて考えてみた。

歩道と車道の間に自転車レーンなどの自転車の走行空間を作ることで歩行者、自転車、自動車、それぞれの安全を確保することはとても大切だ。しかし、自転車レーンの設置は国道・県道など管轄の違い、予算編成から関連団体への理解、設置工事期間などを含めるとまだまだ時間がかかる。そんな中、全国では徐々に意識の高い自治体が自転車レーンを設置し始めている。それでも、快適で安全と唄えるようになるには、まだ時間がかかるのが現実だ。

### 交通安全への意識向上が 事故を未然に防ぐ

2013年3月、大阪市東警察署に出向き、交通ルールについて取材したことがあった。同警察署は市内の本町通りに設置された自転車レーンを管轄する区。取材したのは自転車

レーンの整備前で、出迎えてくれたのは女性警察官だった。自身も子育てをしながら地域の高齢施設や保育所などに出向き、10年以上に渡って交通安全教室を行ってきたという。

ちょうど神奈川県川崎市で二人の娘を乗せて自転車を乗用していた母親が転倒し、後部座席に乗っていた長女がトラックに轢かれるという、痛ましい事故が起きてまもなくの頃だった。府内でも同時期に1歳の子どもが、母親が一瞬目を離れたすきに交通事故に遭い、亡くなる死亡事故が発生していただけに、警察では交通社会の現状を重く受け止めていた時だったようだ。

警察官として交通社会に関わってきた彼女の言葉は一つひとつが重く、誠実であった。また、同じ母親という立場で社会に関わっているだけに、心の底で共感できる部分がたくさんあった。

取材の中で特に印象に残っているのは「自転車レーンの設置は急務ではあるが、それ以上にあらゆる人、子どもから高齢者に至るまで、いつ自分自身が事故の加害者にもなり、また被害者にもなるかもしれない、という危機感を抱き『交通安全への意識』を持つことで事故は必ず防ぐことができる」と断言したことだ。



大阪市本町通りの自転車レーン  
各自治体で自転車レーンの整備が進み始めている



## 免許の有る無しで 事故件数に違い

その言葉を頭に警察庁から発表された2013年の日本全国での交通事故の内訳を見てみた。発生件数は62万9021件で前年にくらべ3万6117件、5.4%減少していた。そのうち、自転車に関連する死亡事故は603件。自動車とぶつかって死亡するケースが493件で81.8%。その49%が出会い頭によるものだった。

また、特徴として警察庁が発表したのが、死亡者の63%が65歳以上の高齢者であり、そのうちの7割が免許を取得していなかったこと。全体的にみても、免許を取得していない人が交通事故にあうケースが多かった。交通ルールの認知不足と高齢社会である日本の特徴を象徴するような統計となった。

免許取得者が交通事故に遭いにくいのは、免許取得時に自動車の運転方法だけでなく、道路標識や道の構成など交通社会に関わるあらゆることを学んでいることが大きいようだ。自動車運転者は自転車乗車中や歩行中においても、免許取得時に学んだことを応用し、自動車の動きを予測したりすることができる。

例えば、右折左折時に点灯する方向指示器などは、車がどのように動くのか予測でき、事故を未然に防ぐのに大いに役立つ。また、定期的な免許更新時の講習もルールの再確認や交通安全意識の向上につながる。

整備を進めていくのと同時に「今」できることは市民一人ひとりが、交通安全への意識を向上させることだ。



京都市で行われた「自転車安全利用講習会」

## 行政と警察が連携した 自転車安全利用講習会

京都市や東京都武蔵野市では、交通安全への意識向上とルール認知を図るため、行政と警察が一体となって開催する自転車安全利用講習会が定期開催されている。

1月25日に京都市で開催された同講習会取材した。京都市と京都府警が主催となり、本誌でも度々掲載される駐輪場を整備する、株式会社アーキエムズといった民間企業、そして自転車活用推進研究会の小林成基理事長も参加されていた。当日は子どもから高齢者まであらゆる年齢の人々が受講。娘と参加していた母親は「安全に移動したいと思っているが子どもへの教育や交通ルールは自分ではカバーできない部分が多い。地域でこういった講習会をしてもらえると非常に助かる」と話す。

このような意識向上につながる講習会には、各警察署が管轄区で行う交通安全教室がある。子ども向けか

ら高齢者向けまで、あらゆる段階に合わせたものを用意している。私自身、これから、子どもが大きくなっていくにつれて、交通安全に関する教育をしなければならない。同様の講習会が地域で開催されていれば必ず活かせるだろう。

また、自分で自分自身の安全も守らなくてはならない。独身の頃とくらべ「母親」という立場になったことで、安全意識は一層高まった。娘二人を育て、子育てに関わるほど、「絶対にこの子達を残して死ぬことはできない」と強く思う。

常に「いつ目の前に信号無視をしたり、一時停止を無視する人が飛び出してくるかわからない」と注意し「気をつけている」。それが交通安全への意識の高さというものだと思う。

自転車社会の環境改善。整備とルール認知に加え、「今」我々が手近にできることは自分自身が交通安全への意識を高く保つことである。そして、それを「警鐘」するのが行政、警察、企業など地域社会の役割ではないだろうか。

PP

### 「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ〈<http://www.cyclists.jp/>〉からどうぞ。